令和２年度「新霊合祀慰霊祭」の報告

去る１０月３１日（土）午前１１時より、宮崎大学教育学部附属幼稚園遊戯室において、新霊合祀慰霊祭を開催しました。今年は、新型コロナウィルス感染防止のため、藤井教育学部長、木犀会顧問、各地区会長を来賓として、岡留徳廣先生（２８年卒）・松本桂子先生（２４年卒）を会員代表として、規模を縮小して開催しました。合祀者は７３名でした。

【 来賓：１０名 】

藤井　良宜	教育学部長
安田　　繁	顧問（元会長）
緒方　明夫	顧問（元会長）
前田　　稔	顧問（前会長）
川崎　満也	日南支会長
伊崎　正一	日南支部事務局長
西國原吉市	都北支会長
濵砂　敬三	西諸県支会長
甲斐　恵次	延岡支会長
野尻　泰弘	西臼杵支会長

御 遺 族：１７名（　９家族）
代表会員：　２名
本部役員：１８名

総計　４７名

【 御来賓の皆様 】

① 開会のことば（佐藤芳信副会長）

② 新霊者７３柱への黙祷

③ 新霊進奏（橋口玄郎会長）

④ 招魂祭の歌（ＣＤのみ）

⑤ 会長慰霊の言葉

⑥ 遺族代表の言葉：満丸洋一様

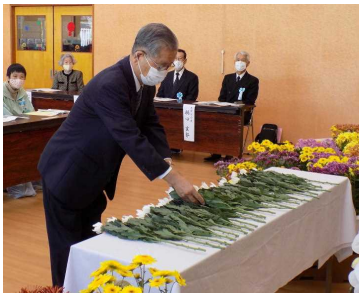
⑦　献　花

（橋口　会長）

（藤井　学部長）

（安田　顧問）

（緒方　顧問）



（前田　顧問）

（川崎日南会長）

（伊崎日南事務長）

（西國原都北会長）

（濵砂西諸県会長）

（甲斐　延岡会長）

（野尻西臼杵会長）

（松本・岡留会員代表）

⑧　遺　族

⑨　終わりの言葉

⑩　集合写真

【 会長慰霊の詞：橋口　玄郎　会長 】

ここ数年、地震・津波、台風、豪雨等の自然災害が日本各地で発生しています。今年もまた、悲しい報道が続き無力感に苛まれています。今年は更に、中国に端を発した新型コロナウィルスが世界中を席巻し、その影響は計り知れません。様々なイベントや行事が相次いで中止・規模縮小に追い込まれ、経済活動も凋んでしまい、多くの方が職を失ったとも聞きます。教育界では、臨時の休校を余儀なくされ、学校の様子が一変してしまいました。一日も早い終息を願わずにはおれません。

この影響で、令和２年度の合祀慰霊祭の開催も危ぶまれていましたが、関係者のご理解とご協力の下、ここ宮崎大学付属幼稚園遊戯室にて、規模を縮小しながらも、何とか開催に辿り着くことが出来ました。その合祀慰霊祭の開催に当たり、謹んで慰霊の詞を拝読申し上げます。今日は１５名のご遺族を始め、ご来賓の皆さま方にご参列いただきました。今回、合祀された尊き御柱の皆さま方は、本県を中心に、特に教育界を支え続けてこられました。今、ご遺族の心情に心を致すとき、万感迫るものがありますが、皆様方の中には、教育方針が180度変わった戦後の経済的にも厳しい時代を経て、高度成長期には追いつけ・追い越せと、週２０時間を優に超える授業時数を経験した方もある筈です。その間、歯を食い縛り、数多くの人材を世に送り出され、ゆとり教育に希望の光を見ながら、幾多の功績を残され旅立たれました。皆さん方は文字通り激動の時代を、唯只管に駆け抜けられました。改めて衷心より感謝の意を表します。本当にお疲れ様でした。今後は天界にて、心安らかに我々後輩たちを温かくお見守り下さい。

ところで、有能な人材が育つ宮崎大学でありたしという我々の願いはいつの時代も不変です。現在、宮崎大学は5学部編成となり、学部間の更なる連携強化の下に「地域から、世界を見よう」を標榜され、特色ある大学の具現化に暇がないところだと伺っております。その充実発展には、県民の期待も大きく、「木犀会」としても、何らかの応援が出来ればと考えています。我々の通った教育学部が、ここ花殿の地から木花に移転して早30有余年が過ぎました。私は年寄のノスタリジーで一抹の寂しさは隠しようがありません。それでも、同窓生たちが再び母校を訪れる機会として「ホームカミングディ」が開催されるようになり、期待も膨らんでいます。しかし、今年度は新型コロナウィルスの影響で中止になり、まことに残念なことでありました。次年度は、是非とも開催にこぎつけ、大学への力強い応援のためにも、多数の卒業生の参加が望まれるところです。

私は木犀会の事業が、「木犀会員の親睦・健康増進」は勿論、県民共通の願いである意欲的で、優秀な指導者育成に繋がればと願っています。合祀者の皆さまも同じ思いだと信じます。ただ、今年度は新型コロナウィルスの影響で悉く中止に追い込まれ、苦慮していますが、若い先生方を育てていくためにも、大学との連携は引き続き大切にし、コロナ禍終息の暁には、一つ一つの事業に対して、会員が結束して事に当たり、木犀会が掲げる方針の実現に努めていくことをここにお誓い申し上げます。

本日は、附属幼稚園の園長先生を始め職員の方々には会場の手配・設営等で大変お世話になりました。また、会員の皆さまも、万難を排して参列下さいましたことも併せてご報告申し上げます。

さて、木犀会員には名だたる先輩方が一杯おられ、その一眼には、後輩が頼りなく映っているかも知れませんが、会報の新任教諭の文面からは、若い先生方も真摯に頑張っている様子が窺えます。合祀者の皆様方には、どうぞご安心ください。そして、改めて７４名の合祀者の皆さまには、御霊の安らかならんことを願い、母校の揺ぎ無い発展と木犀会の一層の充実を見守っていただくよう心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご遺族の皆さま並びにご参列の皆さまには、益々のご健勝とご多幸を祈念し、慰霊の詞と致します。

【 遺族代表追悼の詞：満丸　洋一　氏 】

本年度の新霊合祀慰霊祭に際しまして、合祀者の遺族を代表しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本年度は、コロナウイルス禍にあって、開催を大変心配しておりましたが、事務局の皆様の「規模を縮小してでも合祀招魂の儀を行い」、この一年に亡くなられた方々の「御霊をお慰めしたい」という温かいお心遣いのもと、感染拡大防止のための最大のご配慮をいただきながら、しめやかに開催していただきましたことに対しまして、心より厚くお礼を申し上げます。

本日ご出席のご遺族の皆様には、それぞれが在りし日の故人を思い慕いつつ、共に過ごした人生を振り返りながら、あらためて故人と語らうひとときとなったのではないでしょうか。ここに眠る７３柱の御霊の安らかなることを心静かにお祈りし、哀悼の意を表します。

私事で甚だ僭越ではございますが、故人を偲び、思い出の一端をお話させていただくことをお許しください。

故人は、私の妻の母になりますが、若くして夫に先立たれましたが、結婚を機に辞めていた教職に復帰し、三人の娘を女手一つで立派に育て上げた気丈な人でした。故人の夫は、小林市立三松小学校に在職中、管理職を目前にして教壇で倒れたのですが、その三松小学校に、私が新任の校長として赴任した時は、不思議な縁を感じました。義理の母である故人が誰よりも喜んでくれたことや慈愛に満ちたあの優しい眼差しを鮮明に覚えています。私にとっても、親孝行の一つとなりました。

本年度の新霊の方々の中には、私と同じ昭和４７年卒業の同期生がお二人いらっしゃいます。お一人は、大宮高校時代に同じクラスで共に学んだ級友である、大峰幸則さんです。もうお一人は、小林市教育委員会と西諸県教育事務所で事務引継ぎをした衛藤俊士さんです。余りにも早い、同期の友を失ったさびしさは、深く切ない限りです。

この会場のどこかで、静かにこの慰霊祭を見守ってくれているのでないかと思いながら、お二人の安らかなお眠りをお祈りいたします。

最後になりますが、本日ご多用の中にご臨席をいただきました来賓の皆様方、木犀会の皆様方の温かいお心遣いに、私ども遺族一同深く感謝を申し上げますとともに、ご出席の皆様のご健勝とご多幸を祈念しまして、遺族代表追悼の詞といたします。

令和２年１０月３１日　遺族代表　満 丸　洋 一

（昭和１４年卒業　上田千穂子の次女の夫）